Panasonic®

設置説明書

センサーカメラ

品番　VL-CM240（ブイエル　シーエム）
VL-CM260（ブイエル　シーエム）

設置をされる方へ

- 本機をテレビ/レコーダー/テレビドアホンでご使用の場合は、必ず各機器に登録してから設置を行ってください。携帯電話のみでご使用の場合は登録の必要はありません。
- 各機器に登録するときや携帯電話サービスに申し込むときに、送電装置の登録1または登録2ボタンを押す必要があります。送電装置は手の届く場所に設置してください。

VL-CM240
(屋外タイプ)

VL-CM260
(ライト付屋外タイプ)

設置は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

設置をされる方へ

■この設置説明書をよくお読みのうえ、正しく設置してください。
■**特に「安全上のご注意」は、設置前に必ずお読みいただき、安全に設置してください。また、ご使用の前に別冊の取扱説明書の「安全上のご注意」と「ご使用上のお願い」を必ずお読みください。**
■カメラ本体と送電装置までの総配線距離はVL-CM240は**60 m以内**、VL-CM260は**30 m以内**となるようにしてください。
■正しく設置されなかった場合などの製品の故障および事故について当社は、その責任を負えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。
■電源プラグキャップは、商品を取り出したあと適切に処理をしてください。
■設置終了後は、必ず本書をお客様にお渡しください。

表記について

本書内での表記について

- 本書では、「センサーカメラ」を「カメラ」と表記しています。
- 本書では、「テレビ」、「レコーダー」、「テレビドアホン」、「パソコン」を総称して、「各機器」と表記していることがあります。
- 本書で使用しているカメラのイラストは、VL-CM260を代表として記載しています。

マーク表記について

お 願 い ....設置上、お守りいただきたい重要事項や禁止事項を記載しています。
必ずお読みください。

お知らせ ....操作の参考となることや、補足説明を記載しています。

(☞○ ページ) ....説明上、参照していただきたいページを記載しています。

商標／登録商標について

- QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
- その他、本書に記載の会社名・ロゴ・製品名・ソフトウェア名は、各会社の商標または登録商標です。

プライバシー・肖像権について

カメラの設置や利用につきましては、ご利用されるお客様の責任で被写体のプライバシー(マイク内蔵モデルにあっては、マイクで拾われる音声に対するプライバシーを含む)、肖像権などを考慮のうえ、行ってください。

※「プライバシーは、私生活をみだりに公開されないという法的保障ないし権利、もしくは自己に関する情報をコントロールする権利。また、肖像権は、みだりに他人から自らの容ぼう・姿態を撮影されたり、公開されない権利」と一般的に言われています。

もくじ

設置の前に

設置説明

設置のながれ

■ **設置は、お買い上げの販売店にご依頼ください。**

■ **設置をされる方へ**

- 各機器に登録するときや携帯電話サービスに申し込むときに、送電装置の登録1または登録2ボタンを押す必要があります。送電装置は手の届く場所に設置してください。
- 正しく、安全にご使用いただくための設置方法について記載しています。よくお読みのうえ、設置の手順に従って正しく設置してください。
- カメラ本体と送電装置までの総配線距離はVL-CM240は**60 m以内**、VL-CM260は**30 m以内**となるようにしてください。
- 正しく設置されなかった場合などの製品の故障および事故について当社は、その責任を負えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。
- 設置終了後は、必ず本書をお客様にお渡しください。

下記の項目をよく読む

- 安全上のご注意(☞ 6～8 ページ)
- 設置上のお願い(☞ 9～18 ページ)
- 各部のなまえとはたらき(取扱説明書 ☞ 24～26 ページ)

カメラを設定する

1. カメラと各機器を仮接続する
2. 各機器にカメラを登録する
3. カメラの画像を見る

（1.～3.）登録ガイドを参照してください。

4. カメラの基本設定をする(取扱説明書を参照してください。)

カメラを設置する

(☞ 20 ページ)

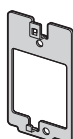
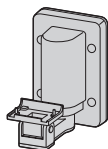
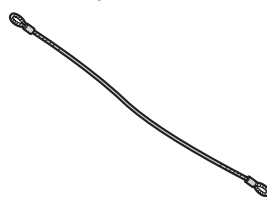
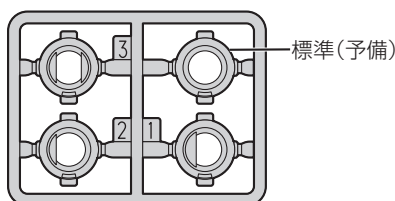
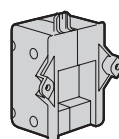
センサーの検知範囲／感度を調整する

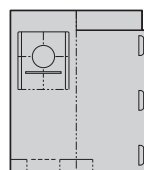
(☞ 32 ページ)

お知らせ

- 携帯電話でカメラ画像を見たいときは、「みえますねっとHome」サービス(有料)、「みえますねっとLite」サービス(有料)に申し込んでください。
  「みえますねっとHome」または「みえますねっとLite」を申し込むには「みえますねっとHome/みえますねっとLiteガイド」または別冊の取扱説明書の「携帯電話でカメラの画像を見る」を参照してください。

付属品の確認

不備な点がございましたら、お買い上げの販売店へお申し付けください。
本製品の付属品以外にご用意いただくものについては、19 ページを参考にしてください。

- □ **送電装置** 1個
- □ **壁掛け金具** 1個
- □ **スタンド** 1個
- □ **ねじA** (4 mm×20 mm) 6本
  (スタンドカバーとスタンドベース取り付け用４本、壁掛け金具取り付け用２本)
- □ **ねじB** (2.6 mm×10 mm) 1本
  (本体と安全ワイヤー取り付け用)
- □ **ねじC** (3 mm×12 mm) 4本
  (本体とスタンド取り付け用)
- □ **ねじF**（4 mm×25 mm） 5本
  (スタンドと壁取り付け用４本、壁と安全ワイヤー取り付け用１本)
- □ **ワッシャー(大)** 1個
  (壁と安全ワイヤー取り付け用)
- □ **ワッシャー(中)** 1個
  (本体と安全ワイヤー取り付け用)
- □ **安全ワイヤー** 1本
  (長さ 約0.3 m)
- □ **センサー範囲調整キャップ** 1式
  標準（予備）
- □ **配線中継ユニット** 1式

● 付属品に関しては配線中継ユニットの組み立て説明書をご確認ください。

- □ **画角確認用カバー** 1枚

QRコードシールについて

「みえますねっとHome」サービス(有料)または「みえますねっとLite」サービス(有料)の登録時に使用します。本体にはり付けられているＱＲコードは、必ず本体からはがして、送電装置の指定の場所にはり付けてなくさないようにしてください。

安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。
（次は図記号の例です）

	してはいけない内容です。
	実行しなければならない内容です。

⚠警告

本製品を壁に取り付けて使用するときは、堅固・確実に取り付ける

落下により、けがの原因になります。

不安定な場所、振動の多い場所、強度の弱い壁には取り付けない

（石こうボード・ALC（軽量気泡コンクリート）・コンクリートブロック・厚さ2.5 cm以下のベニヤ板など）

禁止

落下により、けがの原因になります。

センサー範囲調整キャップは、乳幼児の手の届くところに置かない

禁止

誤って飲み込む恐れがあります。

● 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。

設置・配線工事の際の壁への穴あけや、ケーブルを固定する際は、屋内配線・屋内配管を傷つけない

禁止

漏電・感電・火災などの原因になります。

分解・修理・改造しない

分解禁止

火災・感電の原因になります。

● 修理は販売店へご相談ください。

配線工事は、安全・確実に行う

誤った配線工事は感電や火災の原因になります。

⚠警告

雷のときは配線工事をしない

禁止

火災・感電の原因になります。

電源コードや電源プラグを破損するようなことはしない

（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり 、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない）

禁止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

● コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

AC100 V の電源直結工事は資格を持つ者が行う

感電の原因になります。

● 電源配線工事には電気工事士の資格が必要です。販売店へご相談ください。

電源(AC100 V)を入れたまま配線工事をしない

禁止

感電の原因になります。

指定以外の端子に電源(AC100 V)を接続しない

禁止

ショートして火災・感電の原因になります。

送電装置は水や薬品のかかる場所、湿気やほこりの多いところに設置しない

禁止

火災･感電の原因になります。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、AC100 V 以外での使用はしない

禁止

たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

送電装置をぬらさない(防水構造ではありません。)

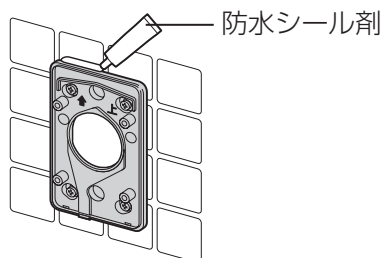
水ぬれ禁止

近くに花びん、コップなどを置かないでください。水などがこぼれて発火・感電の原因になります。

● ぬらした場合は、電源プラグを抜いて販売店にご相談ください。

安全上のご注意 必ずお守りください

⚠注意

スタンドベースは「⬆上」の表示が上側になるように取り付け、取付面についてはスタンドベース下部以外を防水シール剤などでコーキングし、すきまを埋める

防水が不完全な場合、機器の故障や設置する家屋の壁中に水が浸入する原因になります。

土中埋設配線する場合は、土中での接続はしない

絶縁劣化により、感電の原因になることがあります。

土中埋設配線する場合、ケーブルや配線材などは、電線管などを使用して防水処理をする

感電の原因になることがあります。

安全ワイヤーを必ず取り付ける

落下して、けがの原因になることがあります。

設置上のお願い

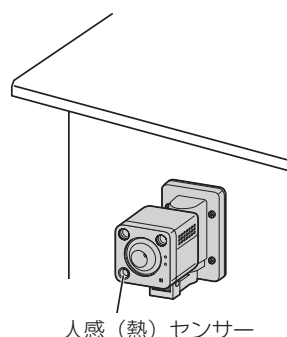
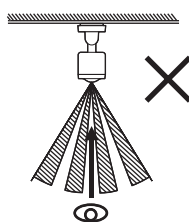
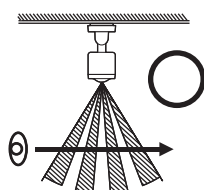
工事について

電源について：必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続してください。
- 電源コンセントの近くに設置し、遮断装置(電源プラグ)に容易に手が届くこと。
- 3 mm 以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。
  ブレーカーは保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。

本機は電気設備技術基準による施工を行ってください。
- 電源を直結する場合は、電源線とその他の信号配線材の間に堅牢な間隔を設ける。
- 配線材はAC600 V以上の絶縁電線を使用する。

設置するとき

本製品は直射日光や雨どいなどから直接水がかかるところを避けて設置してください。
また、設置の際は、次の点にご注意ください。
- ご使用上のお願い(取扱説明書 ☞ 15ページ)を確認してください。
- 天井には、取り付けないでください。
- カメラの前を人が横切るような場所に設置してください。

〔人感(熱)センサーは横からの動きによる温度変化を検知しやすく、正面からの動きは検知しにくくなります。**詳しくは、14 ページを参照してください。**〕

〔カメラを上から見たとき〕

検知距離が
5 m以下に
なる場合あり

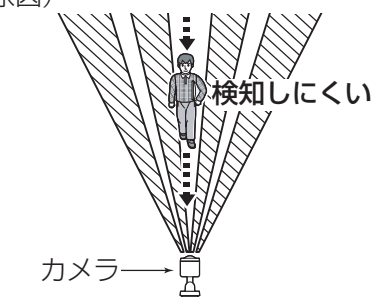
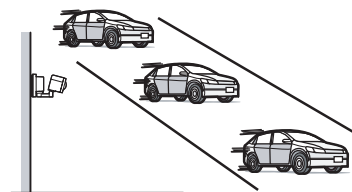
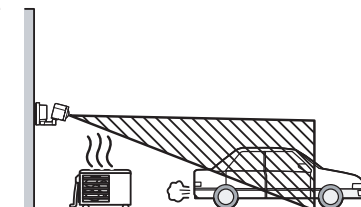
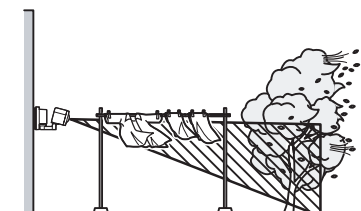
- 隣家と近接した場所に設置するときは、LEDライトの光(VL-CM260)が隣の家に迷惑をかけないようにカメラ角度を調整してください。

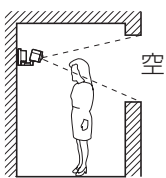
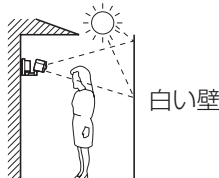
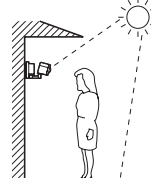
お知らせ

- 動作検知、人感 (熱) センサーは、常に高い信頼性を求められる用途には適していません。常に高い信頼性を求められる監視などの用途には、動作検知、人感 (熱) センサーを使わないことをお勧めします。
- センサーを使うことによって生じた事故などの結果について、当社はその責任を負えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。

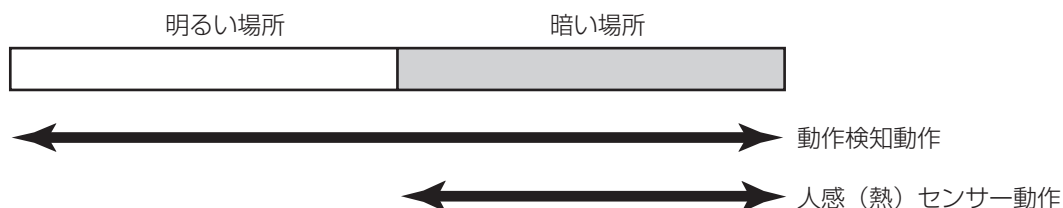
設置上のお願い

こんなところには設置しない（誤動作、変形、故障の原因）

● **真正面から人物が近づいてくるような場所**
（狭い通路などで、人が真正面から近づいてくるような場所）
➔ 12、14 ページを参照してください。

● **車の交通量が多い道路がある場所**
（約5 m以上離れていても、車にはセンサー反応します。）

● **換気扇、エアコンの室外機、給湯器などの風や、車の排気ガスなどの影響を受ける場所**
（急激な温度変化により、誤検知しやすくなります。）

● **風などで動くような植木、洗濯物などがある場所**
（温度変化により、誤検知しやすくなります。）

● 直射日光があたる場所や外灯の真下など、周囲の温度が高くなる場所
● 振動・衝撃や、反響の多い場所
● 火気・熱器具や、磁石などの磁気の近く
● 前方にガラスなど、温度変化の検知を妨げたり、反射するような障害物がある場所
● 油汚れがついたり、蒸気がかかる場所
● 携帯電話など強い電波を発する製品の近く
● 硫化水素、リン、アンモニア、炭素、酸、ほこり、有毒ガスなどの発生する場所
● 海岸の近くや直接潮風があたる場所、温泉地の硫黄環境
（塩害などにより製品寿命が短くなることがあります。）
● 昼間でも木陰などで影になったり、夜でも外灯で明るくなるなど、明るさが変わりやすい場所
● 下記のように逆光になる場所（人の顔が暗く映り、判別しにくくなります。）

マンションの階上など、背景に空の占める割合の大きい場所

正面に、直射日光が反射する白壁がある場所

直射日光が当たるような、明るい場所

動作検知と人感(熱)センサーの検知範囲と特性を理解したうえで、適切な場所にカメラを設置してください。

動作検知と人感(熱)センサーの検知範囲と特性

動作検知および人感(熱)センサーの動作は、明るさにより異なります。

●明るさの判断は、画像の明るさに応じてカメラが自動で行います。

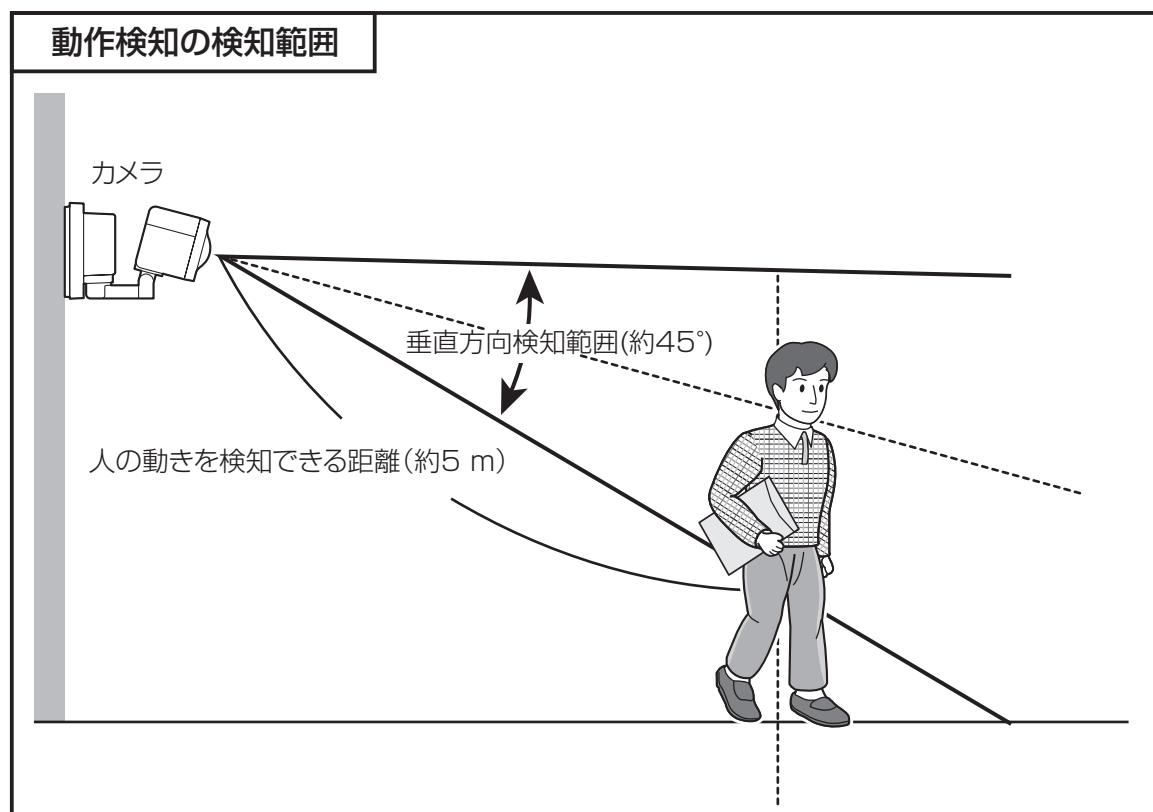
動作検知について

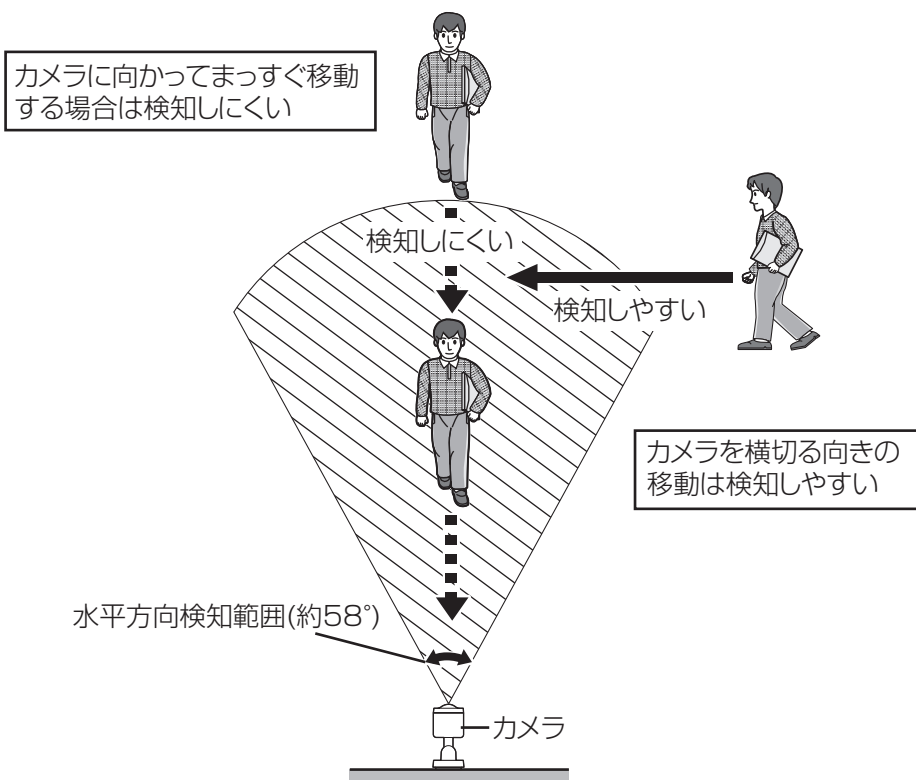
カメラが撮影した画像内の変化を検知します。

動作検知の検知範囲

カメラ

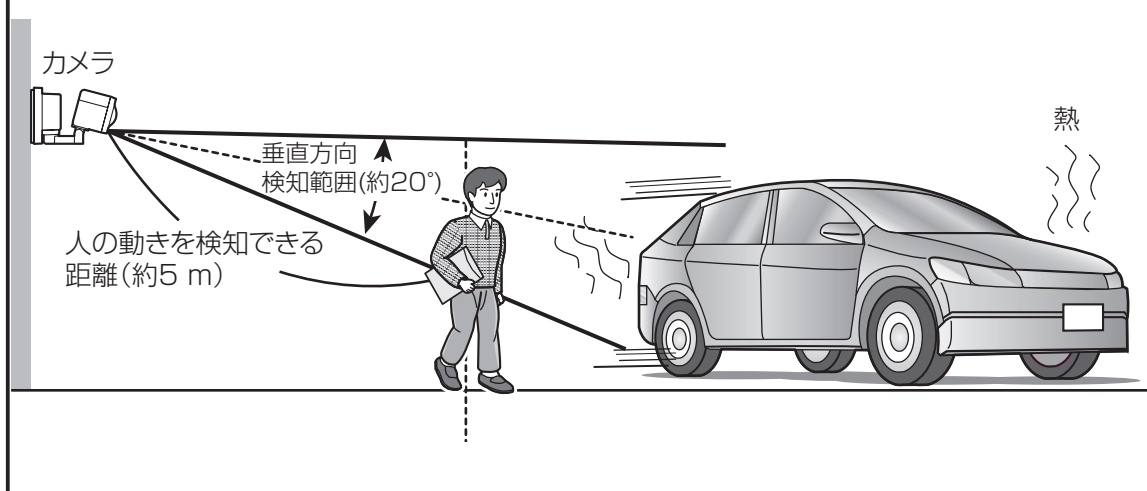
垂直方向検知範囲(約45°)

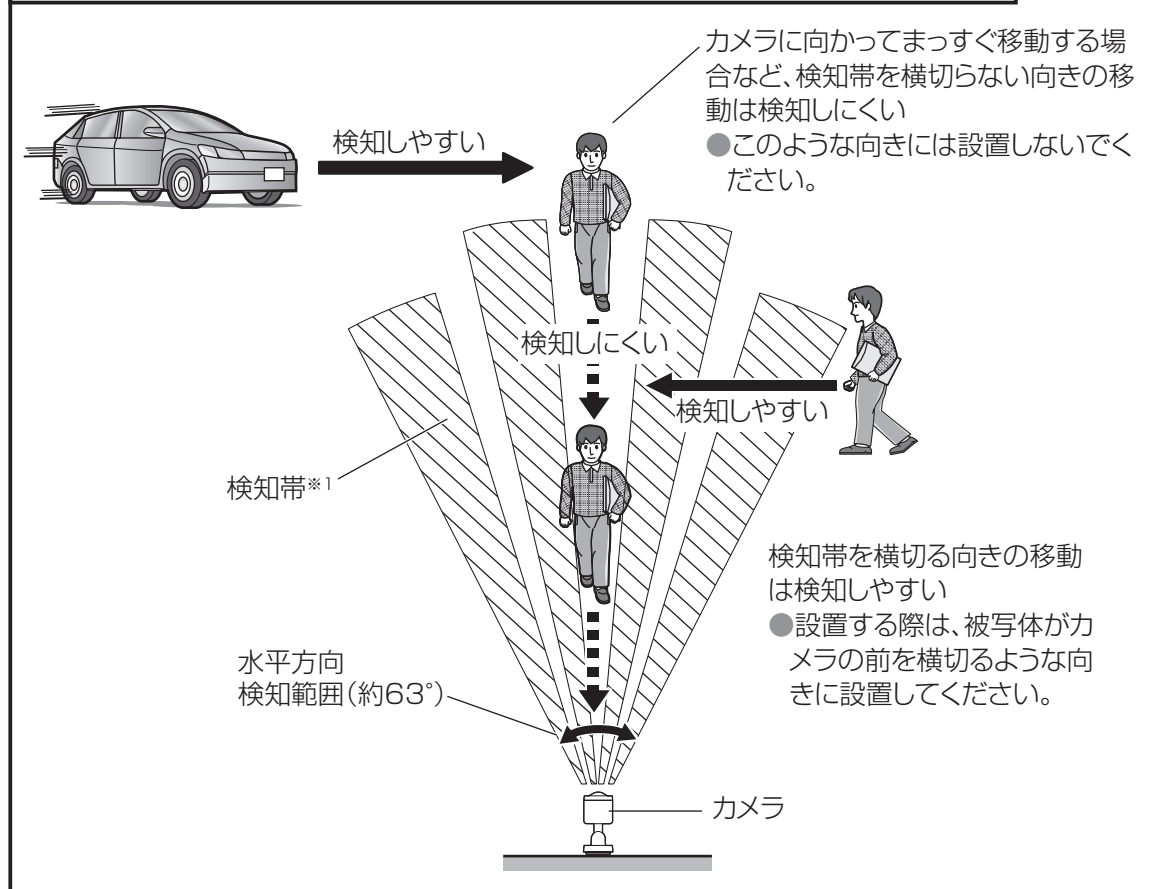
人の動きを検知できる距離(約5 m)

●動いている被写体と背景の色が似ているときは、動作を正しく検知しない場合があります。
●外部照明の点灯時など、全体的に明るさが急変する場合は、誤って動作検知する場合があります。
●LEDライトの点灯/消灯の直後最長2秒間は、動作検知が動作しません。(VL-CM260)

設置上のお願い

- 暗くなると検知しにくくなります。
- 動作検知機能は、動きの変化を動体の輪郭の変化と輝度変化によって検知しています。
  これは、太陽光などによる全体的な明るさの変化で誤って動作検知することを軽減するためです。
- 「みえますねっとHome」/「みえますねっとLite」を除き、各機器へセンサー通知するためのセンサー検知の間隔は工場出荷の状態で約１分です。検知後の約１分※は、各機器へのセンサー通知は行いません。

※センサー検知の間隔は「通知画面終了時間設定」で変更できます。（取扱説明書 ☞ 89ページ）

人感(熱)センサーについて

人や動物などの温度をもつものから自然に放射されている赤外線による温度変化を検知するセンサーです。(車のマフラーやボンネットなどの外気温との差が大きいものにも反応します)

- 夏場など外気温が高いときは、被写体(人の体温など)との温度差が小さくなり、センサー検知しにくくなります。
  逆に、夜間や冬場など外気温が低くなったときは、温度差が大きくなるため、センサー検知しやすくなります。
- カメラで撮影したい方向に道路がある場合は、通行している車に反応することがあります。設置例1または2(☞16〜17 ページ)をご覧のうえ、カメラの撮影方向に道路がこないようにしてください。

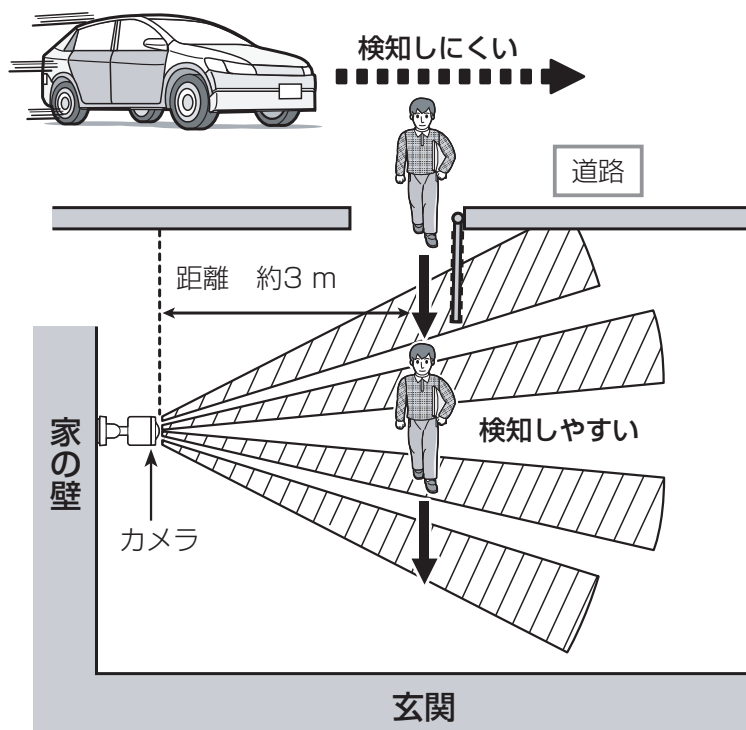
設置上のお願い

● 暗いときにのみ、動作します。

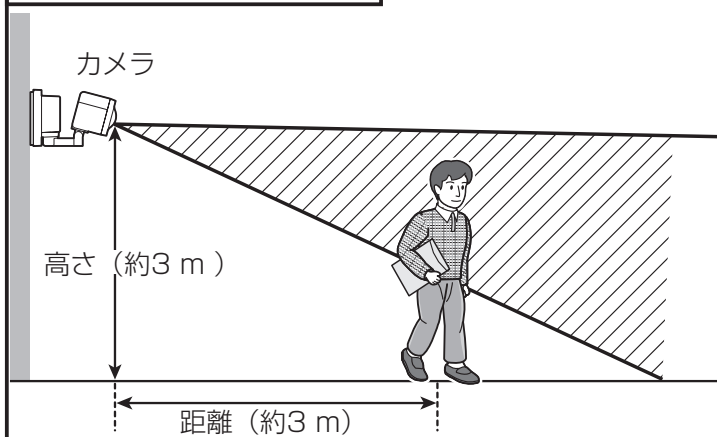
※1 熱を検知する帯で、人感（熱）センサーから複数本出ています。
この検知帯域に熱源（人や車など）が出入りすると、温度変化が発生します。
センサーはその温度変化を検知して動作します。
上図の破線矢印（■■■■▶）のように、カメラに向かってまっすぐ移動すると、検知帯への出入り口が少ないために検知しにくくなります。

● 「みえますねっとHome」/「みえますねっとLite」を除き、各機器へセンサー通知するためのセンサー検知の間隔は工場出荷の状態で約１分です。検知後の約１分※2は、各機器へのセンサー通知は行いません。

※2 センサー検知の間隔は「通知画面終了時間設定」で変更できます。（取扱説明書 ☞ 89ページ）

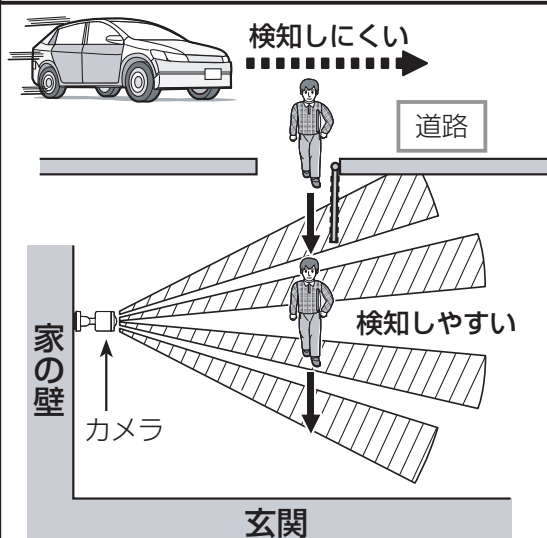
推奨する設置位置

上から見た場合

検知しにくい
道路
距離　約3 m
検知しやすい
家の壁
カメラ
玄関

門からの侵入者は検知しやすく、前の道路を通る人や車は検知しにくい
〔センサーの検知範囲を調整することもできます。（☞ 33 ページ）〕
●ただし、侵入者が横向きに映りやすくなります。正面から映したいとき（☞ 16 ページ）

設置上のお願い

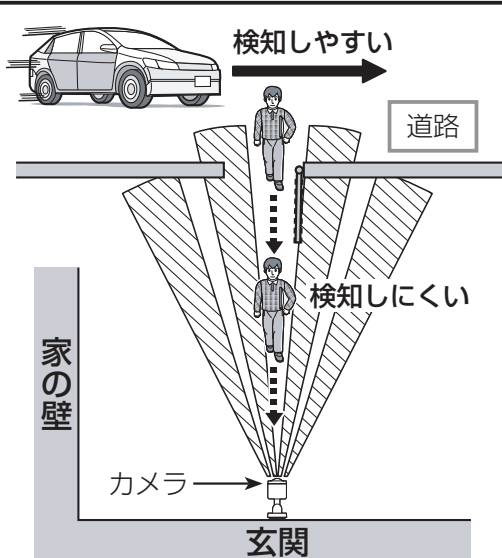
設置例

設置例１　玄関口（門）から入ってくる人を検知したいとき

良い例

門からの侵入者は検知しやすく、前の道路を通る人や車は検知しにくい

（センサーの検知範囲を調整することもできます。（☞ 33 ページ））

● ただし、侵入者が横向きに映りやすくなります。正面から映したいとき（☞下記）

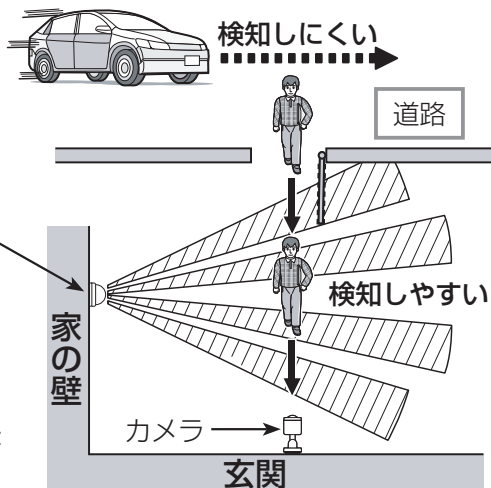
悪い例

前の道路を通る人や車は検知しやすく、門からの侵入者は検知しにくい

設置参考例（市販の外部人感センサーを使用する）

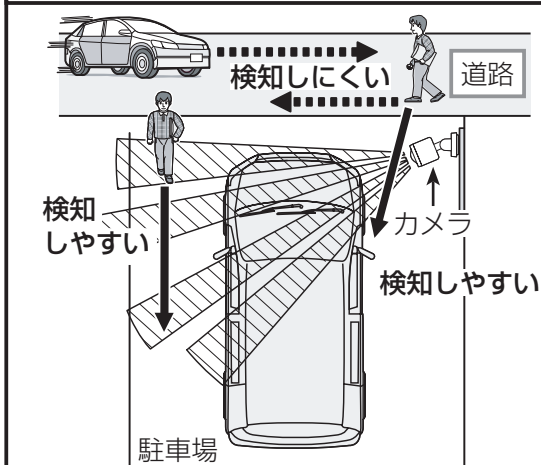
本機と、外部人感センサーを右図のように設置すると、門からの侵入者を検知してさらに正面から映すことができます。

外部人感センサー（推奨品：動作確認済み）
竹中エンジニアリング（株）製
品番：MS-100A
（AC100 V 配線が必要）

● 設置は、推奨品に付属の説明書に従い、確実に行ってください。

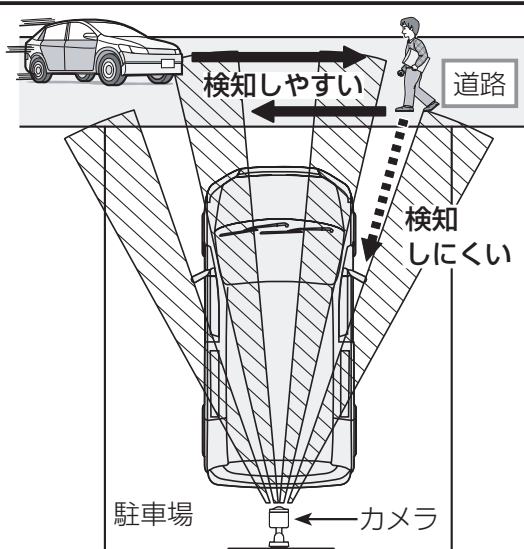
● 外部人感センサーを使用する場合、本機と接続後「センサー選択設定」の設定変更が必要です。※
（取扱説明書 ☞ 75 ページ）
※ ただし、本機のセンサーは、はたらきません。

設置例2　駐車場の中に入ってくる人を検知したいとき

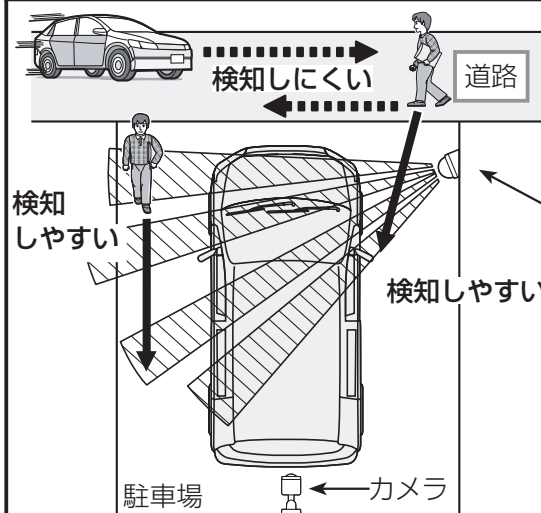
良い例

検知しにくい
道路
検知
しやすい
カメラ
検知しやすい
駐車場

駐車場への侵入者は検知しやすく、駐車場前を通る人や車は検知しにくい

（センサーの検知範囲を調整することもできます。(☞ 33 ページ)）

- 車高の高い車の場合は、侵入者の顔がカメラから映るようにカメラを設置してください。侵入者が車に隠れてしまい検知できないことがあります。
- ただし、侵入者が横向きに映りやすくなります。正面から映したいとき(☞ 下記)

悪い例

駐車場前を通る人や車は検知しやすく、駐車場への侵入者は検知しにくい

設置参考例（市販の外部人感センサーを使用する）

本機と、外部人感センサーを左図のように設置すると、駐車場への侵入者を検知してさらに正面から映すことができます。

外部人感センサー（推奨品：動作確認済み） 竹中エンジニアリング(株)製 品番：MS-100A (AC100 V 配線が必要)

- 設置は、推奨品に付属の説明書に従い、確実に行ってください。
- 外部人感センサーを使用する場合、本機と接続後「センサー選択設定」の設定変更が必要です。※（取扱説明書 ☞ 75 ページ）
  ※ただし、本機のセンサーは、はたらきません。

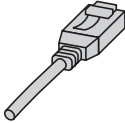
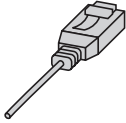
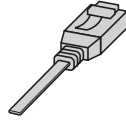
設置上のお願い

LEDライトの明るさについて

■ LEDライトは、センサー検知時の威嚇用です。（VL-CM260）

人などの動きを検知するとLED ライトが点灯しますが、照明用の光量はありません。
（LEDライトの光量：正面3 mで約8.5ルクス、正面から左右20°/3 mで約2.5ルクス）

明るさ、距離の違いによる画像について

次の場合は、人の顔が判別しにくくなります。

- 昼間など明るいときでも、カメラから約**3 m**以上離れたとき
  ただし、撮影時の被写体の場所（日陰・逆光・撮影角度など）によっては、**3 m**以内でも映りが悪くなり、人の顔が判別しにくくなります。
- 夕方や夜間など、周りが暗いとき（画質が低下します）
- 動いている人の撮影では画像がぶれるため、顔の判別が難しくなります。

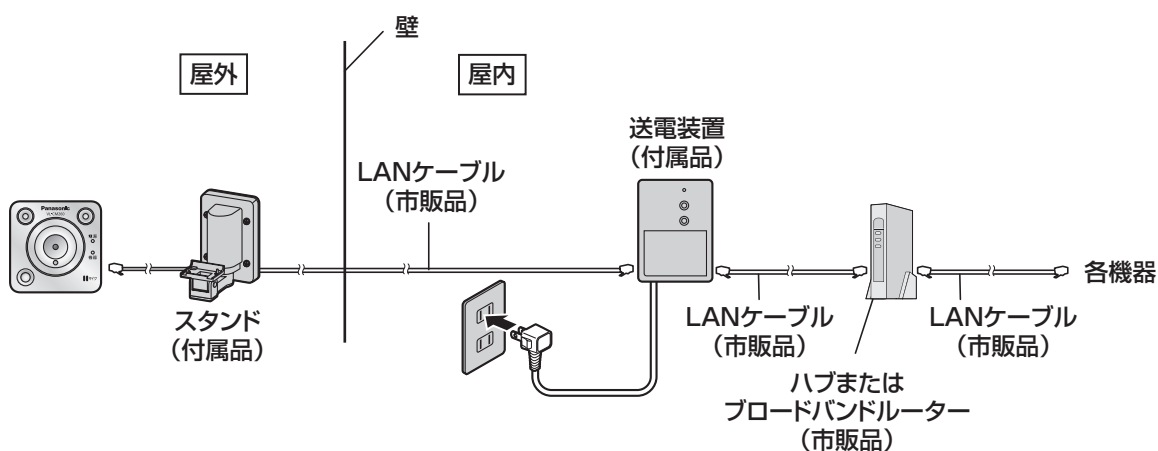
使用されるLANケーブルについて

送電装置とカメラ間を接続する場合のLANケーブルには、標準のLANケーブル※より柔軟性や使いやすさを重視した抵抗値の大きいフラットLANケーブルや細いLANケーブル、あるいは内部の芯線が４芯のLANケーブルは使用できません。

※ 標準のLANケーブル：
100 mの長さでカテゴリー５の特性を保証できるもの（芯線1本当りの抵抗値が100 mで約９ Ωであるもの）

使用できる LAN ケーブル (例)	使用できない LAN ケーブル (例)	
標準の LAN ケーブル	細い LAN ケーブル	フラット LAN ケーブル

配線のながれ

次の図を参考に接続してください。

お知らせ

- 送電装置とカメラや各機器を接続するには市販のLANケーブルが別途必要です。
  設置の際に必要とする長さのLANケーブルを用意してから設置してください。
  LANケーブルはストレートケーブル (カテゴリー5以上) をご用意ください。
- コネクターがついていないLANケーブルを使用する場合は、配線中継ユニット (付属品) を使用することをお勧めします。
- スタンドの下部より屋外に露出する配線の場合は、市販の屋外用LANケーブルまたは別売の屋外設置用ケーブルキットをご用意ください。（取扱説明書 ☞ 104ページ）

カメラを設置する

お願い

- 設置は、お買い上げの販売店にご依頼ください。
- 正しく設置されなかった場合などの製品の故障および事故について当社は、その責任を負えない場合もございますので、あらかじめご了承ください。
- 取り付け場所のねじ引抜強度は、1本あたり294 N（30 kgf）以上です。
- 穴を開けた部分については、必ず防水加工してください。
- カメラ本体と送電装置までの総配線距離はVL-CM240は**60 m以内**、VL-CM260は**30 m以内**となるようにしてください。
- 送電装置は屋内設置用です。必ず屋内に設置してください。
- 各機器に登録するときや携帯電話サービスに申し込むときに、送電装置の登録1または登録2ボタンを押す必要があります。送電装置は手の届く場所に設置してください。
- 本体にはり付けられているＱＲコードは、必ず本体からはがして、送電装置の指定の場所にはり付けてなくさないようにしてください。
- 本体とテレビドアホンを接続してお使いの場合には、設定に関するところはテレビドアホンの取扱説明書とあわせてお読みください。

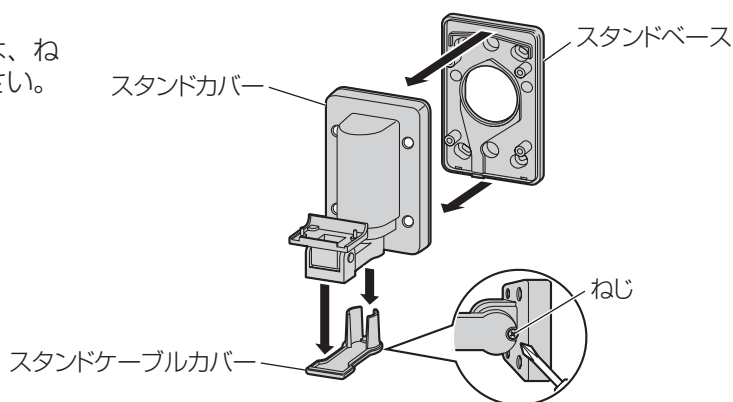
カメラを取り付ける

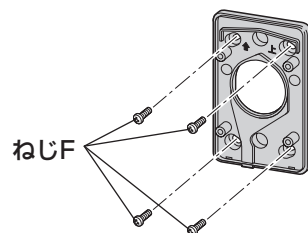
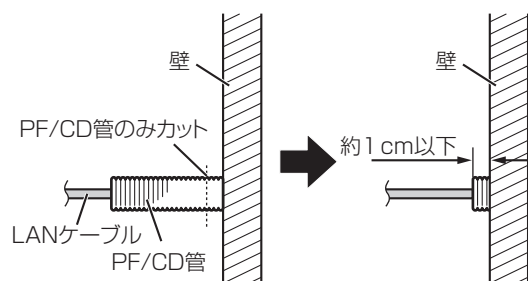
1 カメラ本体の設置場所を決める

以下の点に留意し、カメラ本体の設置場所を決めてください。

- カメラ本体の近くに熱源となるもの（給湯器、エアコン室外機など）が無いこと。(カメラ本体の近くに熱源があると、人感（熱）センサーの誤動作の原因になります。)
- カメラのアルミダイカスト部は高温になることがあります。設置時は天井および壁に接触させないでください。（天井との推奨距離：約10 cm以上）（VL-CM260）
- 人感（熱）センサーや動作検知のしくみについて、11 ～ 14 ページをよくお読みになった上で設置場所を決めてください。
- カメラを仮設置した後に動作を確認し、配線と設置を行ってください。

2 スタンドカバー、スタンドケーブルカバーを外す

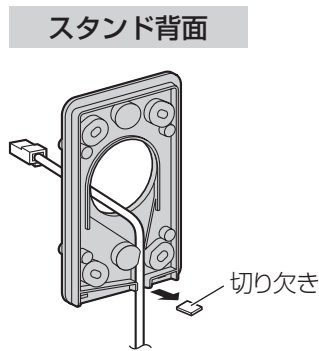
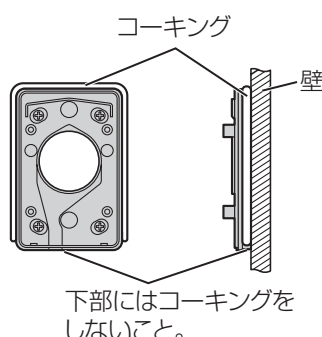
- スタンドケーブルカバーは、ねじをゆるめて外してください。

3 スタンドベースを壁面に確実に取り付ける

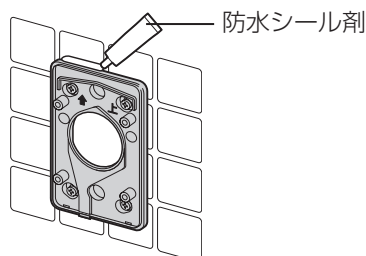
- ねじF（4本：4 mm×25 mm）で取り付けてください。
  (ねじAで取り付けないよう注意してください。)
  壁（モルタル・コンクリート）への取り付け例
  (☞ 22 ページ)

● PF/CD管などを使用している場合は、PF/CD管が取り付け面より約1 cm以下程度の出っ張りとなるよう処理してください。

■ スタンドの下部より屋外用LANケーブル（市販品）を通して配線する場合

● スタンド背面の切り欠き部分を折り、配線してください。

お願い

● 製品の故障の原因になりますので必ず市販の屋外用LANケーブルまたは別売の屋外設置用ケーブルキットをご使用ください。（取扱説明書 ☞ 104ページ）

スタンド背面

4 スタンドベースをコーキングする

⚠ 注意

スタンドベースは「 ⬆上 」の表示が上側になるように取り付け、取付面についてはスタンドベース下部以外を防水シール剤などでコーキングし、すきまを埋める

防水が不完全な場合、機器の故障や設置する家屋の壁中に水が浸入する原因になります。

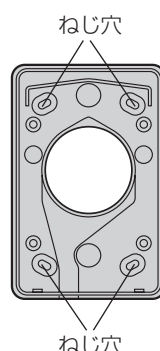
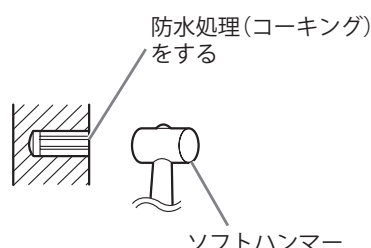
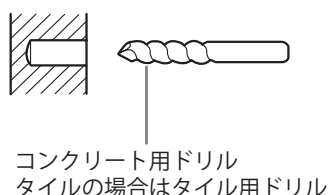
カメラを設置する

■ 壁への取り付け例

(例)材質がモルタルやコンクリートの場合
設置したい位置が決まったら、市販のドリルと専用のアンカー(ねじの呼び径4.0 mm)を用意し、以下の手順を参考に穴をあけてください。

❶ **スタンドを設置したい位置に合わせ、ねじ穴から印を付ける(4カ所)**

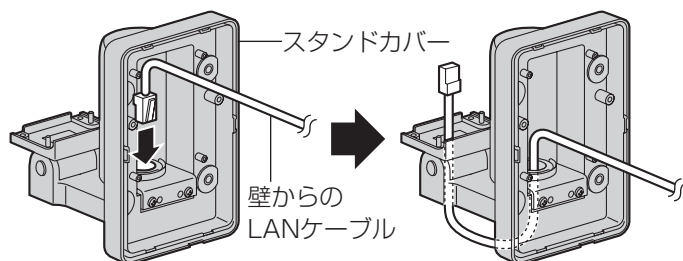
❷ **安全ワイヤーをたるませて取り付けられる位置に印を付ける(1カ所)**

❸ **印に合わせて下の図のようにドリルで穴をあけ、アンカーを差し込み、ソフトハンマーなどで軽くたたく**

1. アンカーのサイズに合わせて、穴をあける
2. アンカーを差し込む(ソフトハンマーで軽くたたく)

❹ **カメラを設置する**

お願い

- 壁にあけるドリルの径の大きさは、用意したアンカーの説明書を参照してください。
- 工事は販売店もしくは施工業者に依頼されることをお勧めします。壁への穴あけ工事について、当社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- モルタル塗壁の場合は、穴あけにより、古い壁が落ちることがありますので、注意して穴あけをしてください。

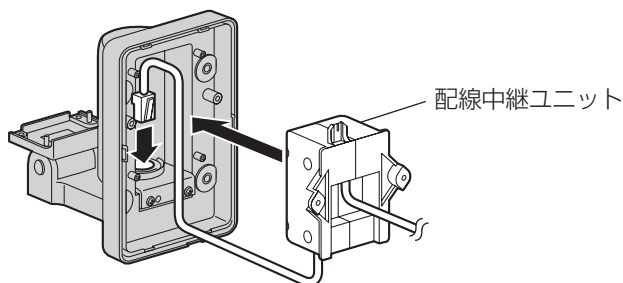
5 LANケーブルを通す

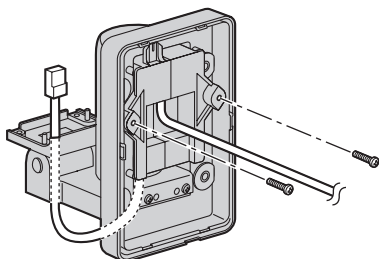
- LANケーブルをスタンドカバー中央の穴に通し、スタンドカバーの外に出してください。

- コネクターがついていないLANケーブルを使用する場合は、配線中継ユニット (付属品)を使用することをお勧めします。 (☞ 23 ページ)

■ 配線中継ユニットを使用する場合

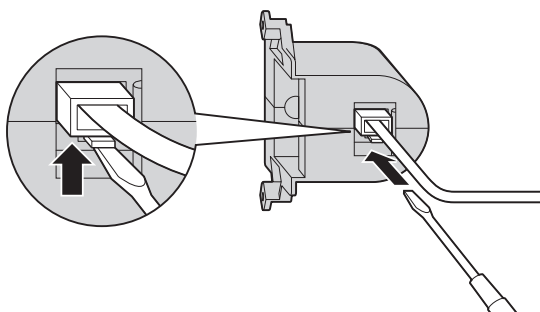
配線中継ユニットを使用する場合は、配線中継ユニットの組み立て説明書に従って結線を行ってください。配線中継ユニットと送電装置はストレート結線してください。配線例については（☞ 28 ページ）

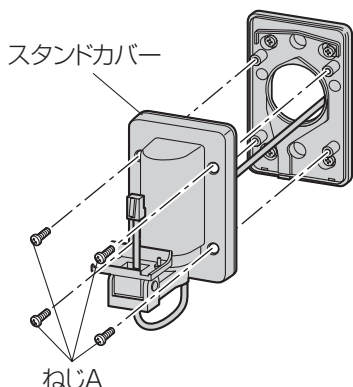
❶ LANケーブルを通す

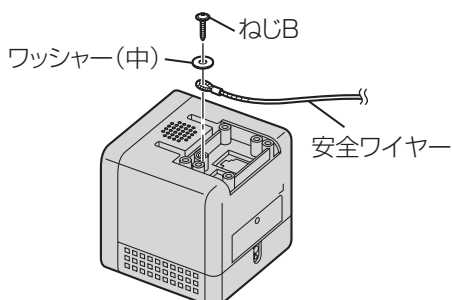
● LANケーブル（付属品）をスタンドカバー中央の穴に通し、スタンドカバーの外に出してください。

❷ スタンドカバーに配線中継ユニットを取り付ける

● 配線中継ユニットに付属のねじ（2本）で2ヵ所固定してください。
（推奨トルク0.6 N・m {6.1 kgf・cm}）

取り付けが完了したら、手順6に進んでください。

● LANケーブルを取り外す場合は、マイナスドライバーなどを使って取り外してください。

設置説明

6 スタンドカバーをスタンドベースに取り付ける

●ねじA（4本：4 mm×20 mm）で4ヵ所固定してください。
（推奨トルク0.8 N・m {8.2 kgf・cm}）
（ねじFで取り付けないよう注意してください。）

7 カメラに安全ワイヤーを取り付ける

●ねじB（1本：2.6 mm×10 mm）とワッシャー（中）で安全ワイヤーを取り付けてください。（推奨トルク0.6 N・m {6.1 kgf・cm}）

8 （外部入力機器がある場合のみ）配線材を接続する

❶「センサー選択設定」の設定を確認する（取扱説明書 ☞ 75 ページ）

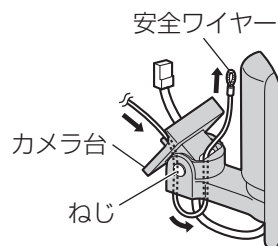
❷「外部入力端子」に配線材を接続する

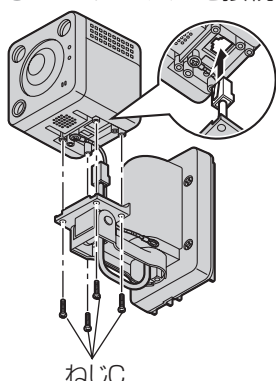
●外部センサーを使用する場合は、センサーを外部入力端子に接続してください。
「外部入力端子について」（☞ 31 ページ）に従って正しく接続してください。

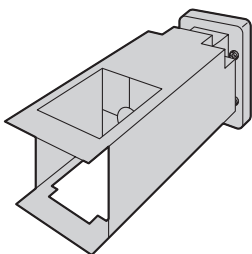
●配線材の抜き差しは、各端子の上にあるボタンをドライバーの先などで押しながら行ってください。

9 安全ワイヤーを下図のようにスタンドの穴から出す

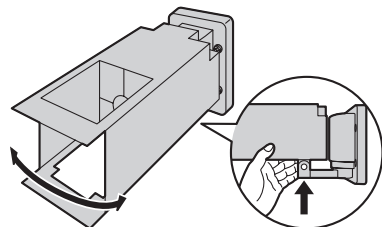
●スタンドカバーのカメラ台のねじをゆるめ、カメラ台を図のようにかたむけ安全ワイヤーを通してください。

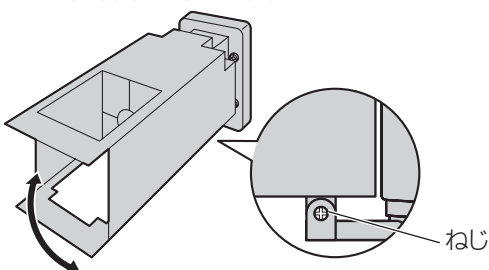
●安全ワイヤーを通したあとは、カメラ台を元の位置に戻し、再度ねじを締め固定してください。

10 LANケーブルをカメラに接続し、スタンドに取り付ける

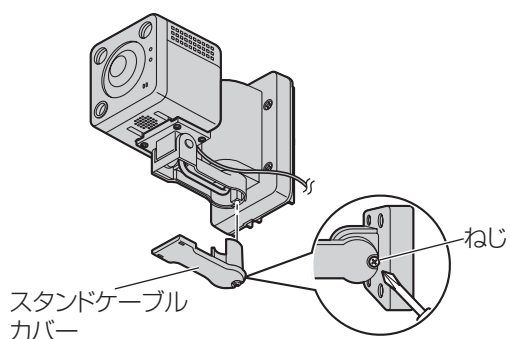
●ねじC（4本：3 mm×12 mm）で取り付けてください。（推奨トルク0.8 N・m {8.2 kgf・cm}）
●LANケーブルを接続するときは、「カチッ」という音がするまで差し込んでください。

11 画角確認用カバーを取り付ける

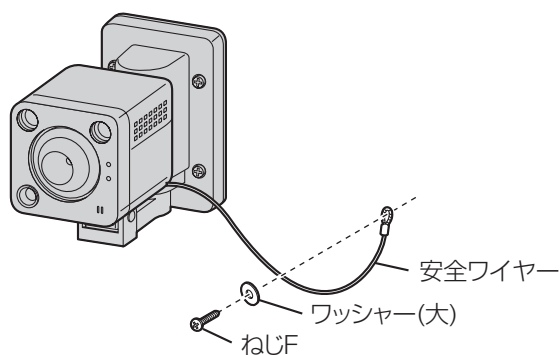
●画角確認用カバーの作成のしかたや確認のしかたは、画角確認用カバーをご確認ください。
●本カバーは簡易的な画角確認用です。最終的な画像範囲の確認は実際の画像で行ってください。

12 画角確認用カバーを使ってカメラの角度を調整する

■ 左右方向の角度を調整する場合

●カメラ本体を図のように持ち上げながら、左右方向の角度を調整してください。

■ 上下方向の角度を調整する場合

●スタンドカバーのカメラ台のねじをゆるめて上下方向に角度を調整後、ねじを締めてください。
●上下方向の角度が固定されます。

13 設置角度が決まったら画角確認用カバーを外し、スタンドケーブルカバーのねじを締め固定する

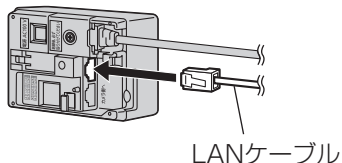
- 左右方向の角度が固定されます。
- LANケーブルがあまるときは、スタンド側に戻してください。

14 壁に安全ワイヤーをたるませて、ねじFで取り付ける

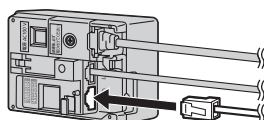
- 壁の材質がモルタルやコンクリートの場合は、アンカーを使用し、確実に固定してください。（☞ 22 ページ）

お 願 い

- スタンドにぶらさがったり、カメラ以外のものを固定しないでください。

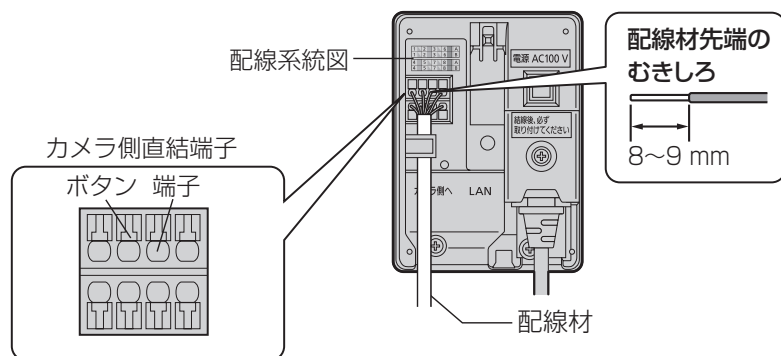
屋内側のケーブル配線

1 各機器とハブまたはルーターをLANケーブル(市販品)で接続する

2 送電装置の「LAN」端子とハブまたはルーターをLANケーブル(市販品)で接続する

- 「カメラ側へ」端子には接続しないでください。
- 接続の全体図は登録ガイド1ページの接続例を参照してください。
- 送電装置は、壁掛け金具を使用して固定することもできます。
- 各機器に登録するときや携帯電話サービスに申し込むときに送電装置の登録1または登録2ボタンを押す必要があります。送電装置は手の届く場所に設置してください。
- 携帯電話で使用する場合は、インターネットに接続できる環境が必要です。
- 各機器と送電装置の「LAN」端子を直接LANケーブルで接続して使用することもできます。

3 カメラからのLANケーブル(市販品)を、送電装置の「カメラ側へ」端子に差し込む

■ コネクターがついていないLANケーブルを使用する場合

背面の配線系統図に従ってカメラ側直結端子に正しく接続してください。

- 配線材の抜き差しは、各端子のボタンをドライバーの先などで押しながら行ってください。

お 願 い

- 電源線(AC100 V など)は、絶対に接続しないでください。故障の原因になります。
- 「カメラ側へ」端子とカメラ側直結端子は同時に使用しないでください。
- 配線材の線種は「単芯線」を使用してください。
- 直結端子を使用する場合は、床置きなどは避けてください。

設置説明

カメラを設置する

配線中継ユニットと送電装置はストレート結線してください。

配線例

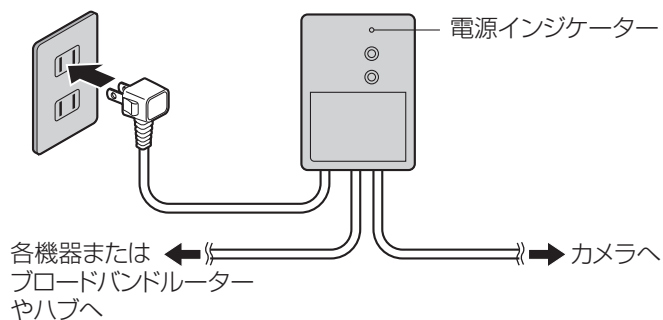
● 下記はTIA/EIA-568-A規格に従った配線例を示しています。

配線中継ユニット		送電装置	
1	白 / 緑	1	白 / 緑
2	緑	2	緑
3	白 / 橙	3	白 / 橙
4	青	4	青
5	白 / 青	5	白 / 青
6	橙	6	橙
7	白 / 茶	7	白 / 茶
8	茶	8	茶

4 電源コードのプラグをコンセント(AC100 V)に差し込む

● カメラが起動します。

● AC100V電源線を直結する場合は、「送電装置の取り付け方法」(☞ 30ページ)を参照してください。

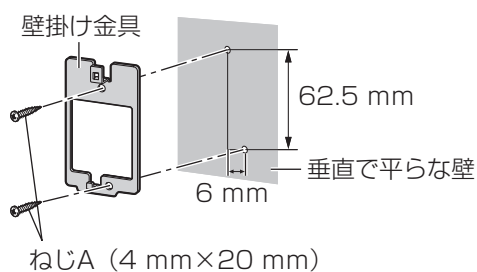
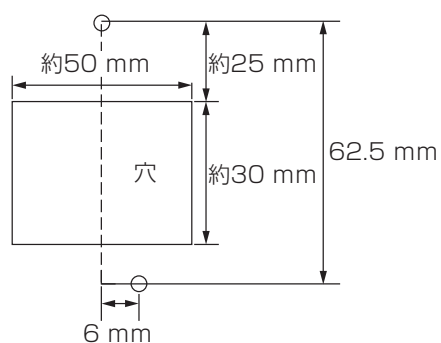
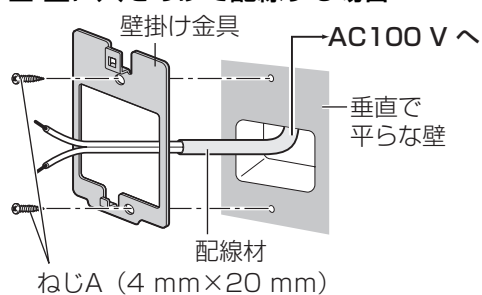
● カメラが起動し、送電装置の電源インジケーターが緑に点灯することを確認してください。

お 願 い

● 電源コードのプラグは全ての接続、設置が完了してからコンセントに差し込んでください。

送電装置の取り付け方法

1 付属の壁掛け金具を壁面に確実に取り付ける

■ 壁に穴をあけて配線する場合

設置説明

カメラを設置する

2 【AC100 V 電源線を直結する場合のみ】

電源線を接続する 電気工事士の資格が必要

● 配線は必ず電源を遮断した状態で行ってください。

① 電源コードカバーを取り外す

② ボタンを押しながら、電源コードを取り外す

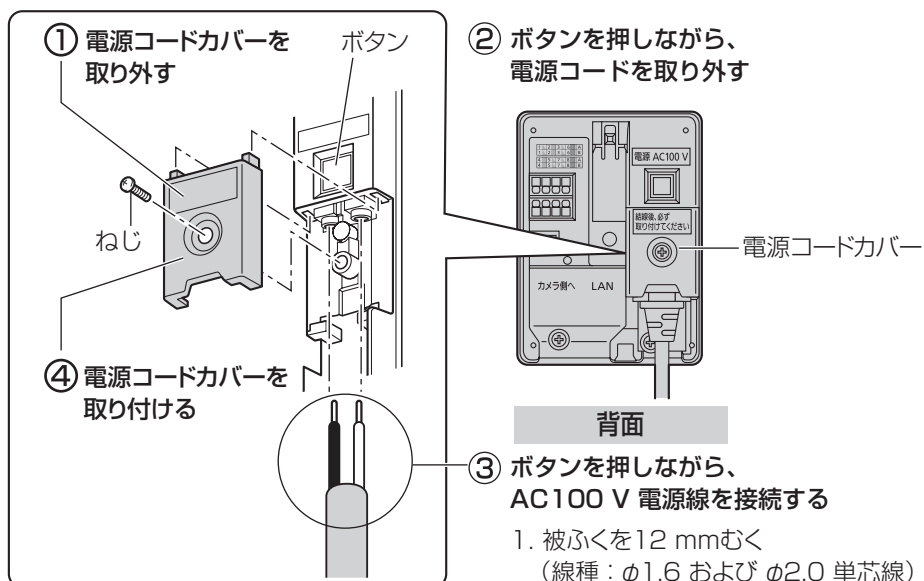
③ ボタンを押しながら、AC100 V 電源線を接続する

1. 被ふくを12 mmむく
（線種：φ1.6 および φ2.0 単芯線）

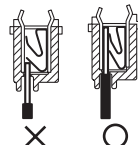
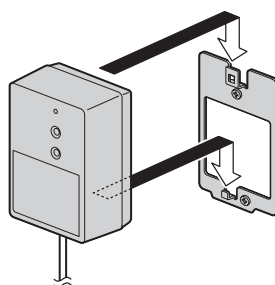
2. 奥まで確実に差し込む

〈AC100 V 電源線接続端子断面図〉

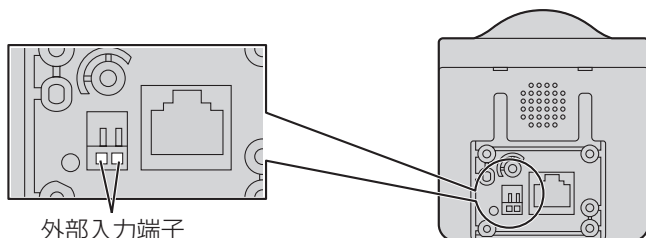
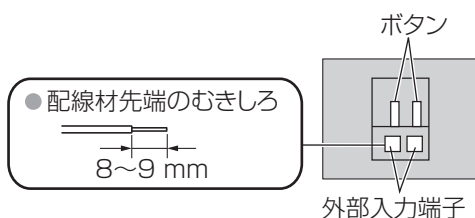
④ 電源コードカバーを取り付ける

ボタン
ねじ
電源 AC100 V
結線後、必ず取り付けてください
電源コードカバー
カメラ側へ LAN
背面
50 mm以上
12 mm
×　○

⚠ 注意

奥まで確実に差し込む

差し込みが不完全な場合、発熱の原因になることがあります。

3 送電装置を取り付ける

外部入力端子について

外部入力端子があります。必要に応じてご利用ください。

● 利用する前にカメラの「センサー選択設定」メニューの設定を「外部センサーを利用する」に変更してください。（取扱説明書 ☞ 75ページ）
● 端子への接続は、電源を切った状態で行ってください。
● カメラをスタンドに設置している場合は、スタンドから外した状態で行ってください。

● 配線材の抜き差しは、各端子のボタンをドライバーの先などで押しながら行ってください。

外部入力端子

本機の人感（熱）センサーを使わず、下記のような外付けの人感センサーを使うときに使用します。

外部人感センサー（推奨品：動作確認済み）

竹中エンジニアリング（株）製	品番：MS-100A（AC100 V 配線が必要）

● 設置は、推奨品に付属の説明書に従い、確実に行ってください。
● この端子に機器を接続したときは、カメラの「センサー選択設定」メニューの設定を「外部センサーを利用する」に変更してください。（取扱説明書 ☞ 75ページ）
本機の人感(熱)センサーおよび動作検知は、動作しなくなります。

外部入力端子の仕様

端子を短絡すると検知します。（a接点）
開放時電圧：約3 V
短絡時電流：約0.6 mA(短絡/開放 連続0.2 秒以上で検知）

線種と配線距離

下表の線種・配線距離以外で使用されると、動作不良の原因になります。

配線区間	線種	配線距離
外部入力端子〜接続機器	単芯線（mm）：φ0.32〜φ0.64	接続する機器の仕様に従う（ただし、20 m 以内）

センサーの検知範囲／感度を調整する

動作検知・人感(熱)センサー・外部センサーの検知状況を「設置確認画面」で確認します。また、必要な場合は検知の範囲や感度を調整することができます。本体とテレビドアホンを接続してお使いの場合には、設定に関するところはテレビドアホンの取扱説明書とあわせてお読みください。

設置確認画面で確認する

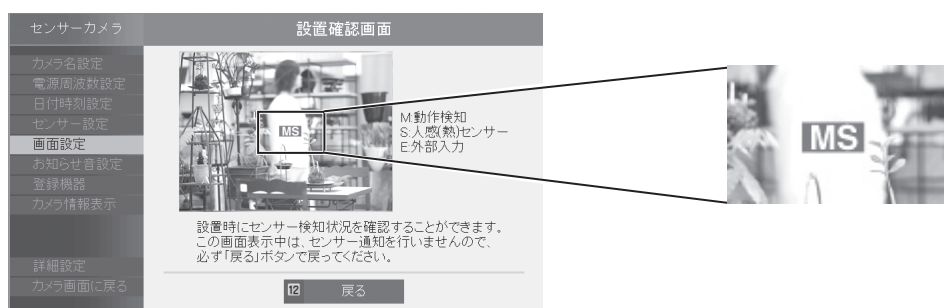
撮影角度の確認を行います。「設置確認画面」を選択し、画面の表示が目的の場所を撮影しているかどうかを確認します。（取扱説明書 ☞ 77ページ）
もし、ずれている場合はカメラの角度を調整してください。（☞ 25 ページ）

逆光・明るさの調整ができます。(取扱説明書 ☞ 78ページ)

検知範囲を調整する

「設置確認画面」でセンサーの検知状況を確認することができます。
（取扱説明書 ☞ 77ページ）

● 画面の中央に検知したセンサーにより、
M：動作検知
S：人感(熱)センサー検知
E：外部センサーの検知
が表示されます。
● 検知すると、VL-CM260はLEDライトが点滅し、VL-CM240は機器インジケーターが赤点滅します。

この機能を使って、検知させたい被写体で正しく検知し、検知させたくない被写体での誤検知がないように調整します。

1 検知させたい被写体で確認・調整する

● カメラを設置した状態で、検知させたい場所、および人物の進行方向でセンサーが検知するかどうかを確認してください。

■正しく検知する場合

手順2に進んでください。

■検知しない場合

「センサーの感度について」(☞ 37 ページ)を参照し、以下の設定を行ってください。

「設置確認画面」で「S」が表示されない場合

● 「センサー設定」の「人感(熱)センサー感度設定」で人感(熱)センサーの感度を１ランク上げて調整してください。（取扱説明書 ☞ 75ページ）
● 人感(熱)センサーの感度を「高感度」に設定しても正しく検知できない場合は、外部センサーを設置してください。（☞ 42 ページ）

「設置確認画面」で「M」が表示されない場合

● 「センサー設定」の「動作検知感度設定」で動作検知の感度を１ランク上げて調整してください。（取扱説明書 ☞ 75ページ）

設置説明

センサーの検知範囲／感度を調整する

2 検知させたくない被写体で確認・調整する

● 道路を行き来する通行人や車など、検知させたくない被写体でセンサーが誤って検知しないかどうかを確認してください。

■誤って検知する場合

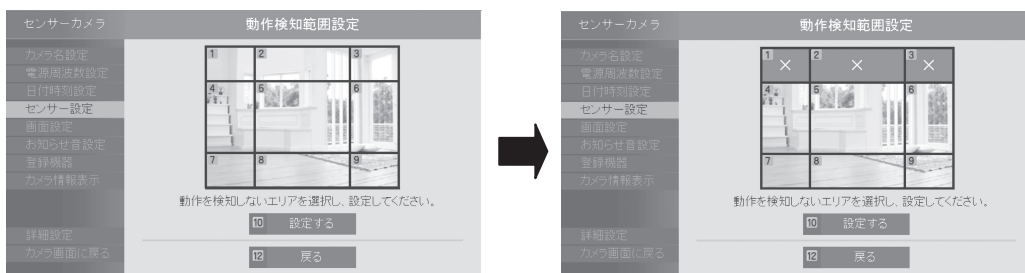
「センサーの感度について」(☞ 37 ページ)を参照し、以下の設定を行ってください。

「設置確認画面」で「S」が表示されて誤って検知する場合

● 誤って検知するものの方向をふさぐように、センサー範囲調整キャップを適切な角度で取り付けてください。(☞ 35〜36 ページ)
● 誤って検知するものが人感(熱)センサーの検知範囲からはずれるようにカメラの向きを変えてください。(☞ 25 ページ)
● 「センサー設定」の「人感(熱)センサー感度設定」で人感(熱)センサーの感度を1ランク下げて調整してください。(取扱説明書 ☞ 75ページ)
● 人感(熱)センサーの感度を「超低感度」にしても正しく検知できない場合は、外部センサーを設置してください。(☞ 42 ページ)

調整が完了したら、手順1にしたがって、検知させたい被写体で正しく検知するかを再度確認してください。

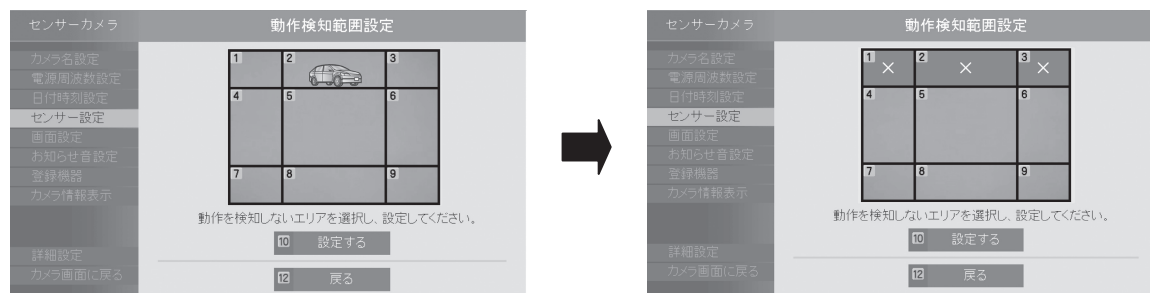
「設置確認画面」で「M」が表示されて誤って検知する場合

● 誤って検知するものの画面上の位置を「動作検知範囲設定」で未検知範囲に指定してください。(取扱説明書 ☞ 76ページ)

● 「センサー設定」の「動作検知感度設定」で動作検知の感度を1ランク下げて調整してください。(取扱説明書 ☞ 75ページ)

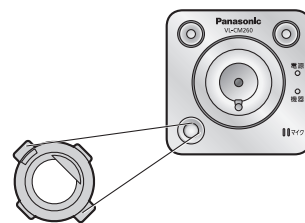
調整が完了したら、手順1にしたがって、検知させたい被写体で正しく検知するかを再度確認してください。

センサーの誤検知を防ぐ

動作検知の場合

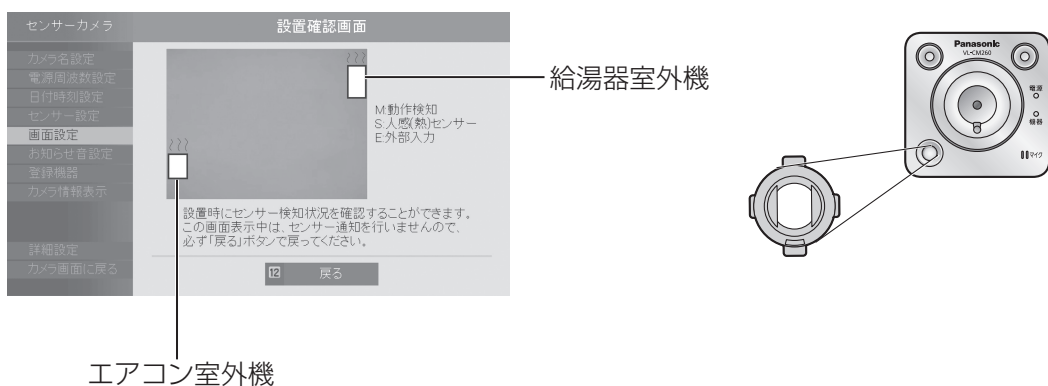
画面上に車道の車が映っている場合は、車が映る部分をふさぐように「動作検知範囲設定」で未検知範囲に指定してください。（取扱説明書 ☞ 76ページ）

（例）
画面の上側に検知させたくない車道の車が映るので、「動作検知範囲設定」でブロック1、2および3を未検知範囲に指定します。

人感（熱）センサーの場合

画面上に車道の車が映っている場合は、車が映る部分をふさぐようにセンサー範囲調整キャップを取り付けてください。（☞ 39 ページ）

（例１）
画面の左上に検知させたくない車道の車が映るので、センサー範囲調整キャップ1または2を図のようにカメラから見て左上（カメラに向かって右上）をふさぐ方向に取り付けます。

設置説明

センサーの検知範囲／感度を調整する

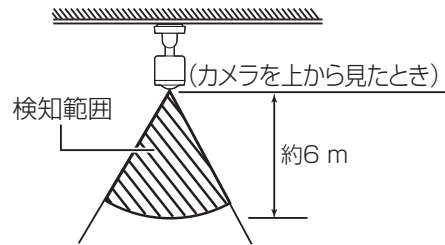
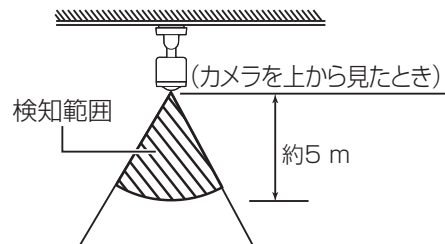
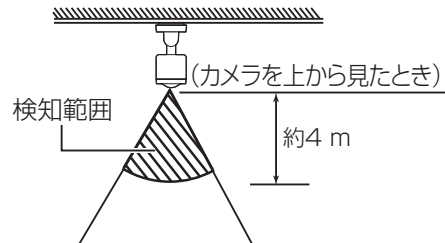
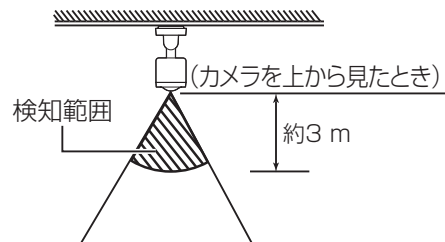
給湯器やエアコンの室外機のように熱を発するものが画面上にある場合は、その部分をふさぐようにセンサー範囲調整キャップを取り付けてください。（☞ 39 ページ）

（例２）

画面の右側と左側に検知させたくない給湯器やエアコンの室外機が映るので、センサー範囲調整キャップ３を図のように左右をふさぐ方向で取り付けます。

センサーの感度について

動作検知の場合

小さな動作を検知したい場合や過度に検知したくない場合などに調整します。
● 検知範囲は、あくまでもめやすです。
被写体の明るさや設置環境により検知範囲が変わります。

■ 感度設定が「高感度」の場合

■ 感度設定が「標準」の場合

■ 感度設定が「低感度」の場合

■ 感度設定が「超低感度」の場合

センサーの検知範囲／感度を調整する

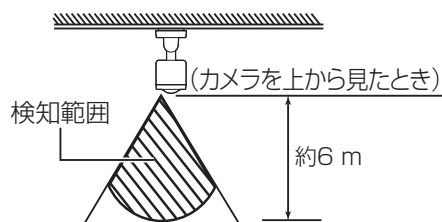
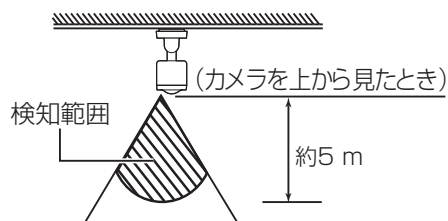
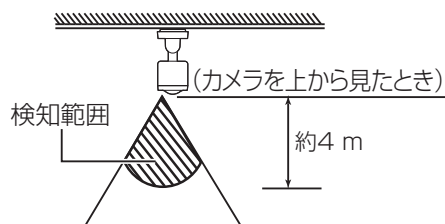
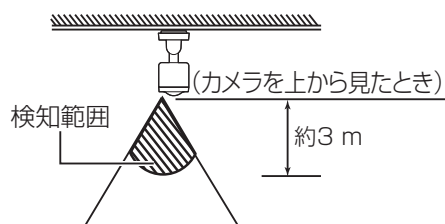
人感(熱)センサーの場合

カメラ本体の「人感(熱)センサー感度設定」を変更することにより、以下のようにセンサー検知範囲が変わります。

● 検知範囲は、あくまでもめやすです。
カメラ設置場所の周囲温度や環境により検知範囲は変わります。

〔周囲温度：20 ℃のとき〕

■感度設定が「高感度」の場合

● カメラ設置場所の環境によってセンサーの感度を上げないと使用できないときに設定してください。
● この設定にすると、風や撮影範囲外で反応しやすくなります。

■感度設定が「標準」の場合

■感度設定が「低感度」の場合

■感度設定が「超低感度」の場合

センサー範囲調整キャップについて

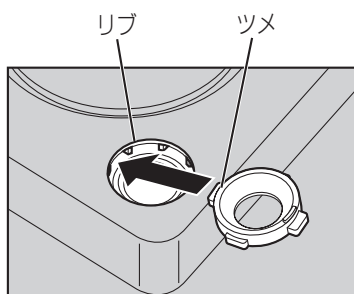
人感(熱)センサーで検知させたくないものがある場合、センサー範囲調整キャップを取り付けることによって、センサーの検知範囲を調整することができます。ただし、カメラ設置場所の周囲温度により検知範囲は変わります。

取り付け方法

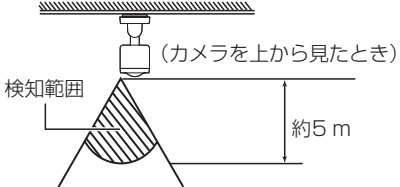
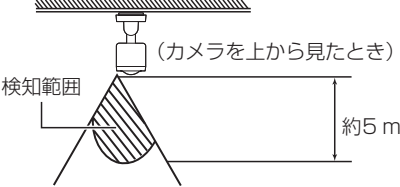
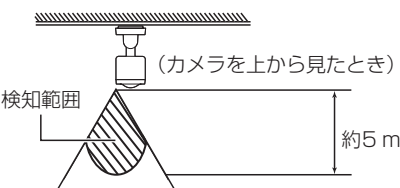
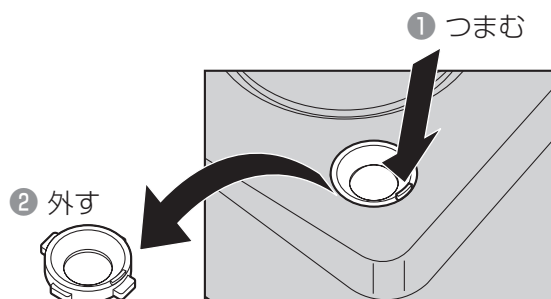
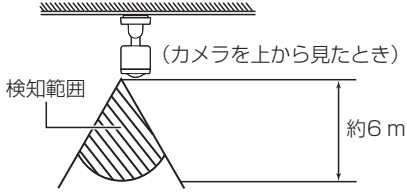
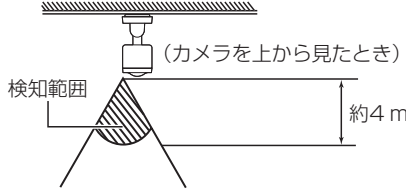
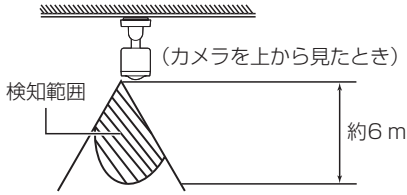
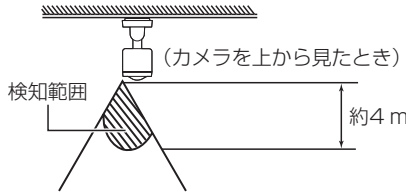
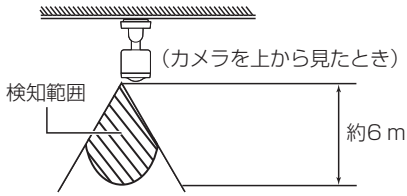
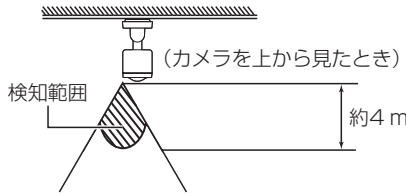
センサー範囲調整キャップは、標準(お買い上げ時に本体に装着)、キャップ1、キャップ2、キャップ3の4種類があります。それぞれのキャップは、ふさぐ方向と度合いが異なり、取り付け方向は45°単位で回転させることができます。適切なキャップを適切な方向で取り付けてください。それぞれのキャップの検知範囲は次のページを参照してください。

設置説明

■取り付け方法

ご希望のセンサー範囲調整キャップを取り付けてください。(☞ 40 ページ)
キャップのツメを溝に合わせて入れてください。

お願い

● 人感(熱)センサーの性能に影響をおよぼすことがあるので、キャップのツメを溝にきちんと合わせて取り付けてください。

■取り外し方法

図のようにキャップを取り外してください。

センサーの検知範囲／感度を調整する

センサー範囲調整キャップの検知範囲

センサー範囲調整キャップを取り付けることによって調整できる人感(熱)センサーの検知範囲は、カメラ設置場所の周囲温度により変わります。以下の一覧でセンサーの検知範囲を確認してください。ただし、「人感(熱)センサー感度設定」（☞ 38 ページ）が「標準」のときのあくまでもめやすの検知範囲です。

<table>
<tr><th>センサー範囲調整キャップ</th><th colspan="2">周囲温度：20 ℃のとき</th></tr>
<tr><td>標準
（お買い上げ時に本体に装着）</td><td colspan="2">（カメラを上から見たとき）
検知範囲
約5 m</td></tr>
<tr><td>■カメラから見て右側に隣家の壁または、道路などがあり、右側を検知させたくないとき
↓
付属のキャップ2または、キャップ1を下図の向きに取り付ける
キャップの横に番号の表示があります。
キャップ2
キャップ2より右側部分をさらに検知させたくないときは、キャップ1を取り付けてください。
キャップ1
※カメラから見て左側を検知させたくないときは、キャップ2またはキャップ1を逆向きに取り付けてください。（この場合、右記の検知範囲も逆になります。）</td><td>キャップ2</td><td>（カメラを上から見たとき）
検知範囲
約5 m</td></tr>
<tr><td>■カメラから見て右側に隣家、左側に道路などがあり、どちらも検知させたくないとき
↓
付属のキャップ3を下図のように取り付ける
キャップ3</td><td>キャップ3</td><td>（カメラを上から見たとき）
検知範囲
約5 m</td></tr>
</table>

お知らせ

● センサー範囲調整キャップの取り付け角度に応じて、図の検知範囲も回転します。

周囲温度：0 ℃のとき
周囲温度：30 ℃のとき
（カメラを上から見たとき）
検知範囲
約6 m
（カメラを上から見たとき）
検知範囲
約4 m
（カメラを上から見たとき）
検知範囲
約6 m
（カメラを上から見たとき）
検知範囲
約4 m
（カメラを上から見たとき）
検知範囲
約6 m
（カメラを上から見たとき）
検知範囲
約4 m

センサーの検知範囲／感度を調整する

外部センサーを使う

センサー感度設定やセンサー範囲調整キャップでも正しく検知できなかったり、誤って検知したりする場合は、外部センサーを使ってください。（☞16 ～ 17 ページ）
外部センサーを使う場合は「センサー設定」の「センサー選択設定」メニューで「外部センサーを利用する」に変更してください。（取扱説明書 ☞ 75ページ）